

第7回専門部会 議事録（地域カテゴリー）

平成28年3月17日（木）18時30分～

登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

- ◆出席委員：川田 弘教 委員
- 藤田 康 委員
- 千葉 洋子 委員
- 米田 登美子 委員
- 井上 昭人 委員
- 計5名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
(1) 各専門部会における具体的事業の協議	事務局	ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第7回専門部会を開催いたします。
	事務局	地域カテゴリーでは、マップを作成し、地域にある資源をマップに落とし込んでいくことをはじめの取組として考えていくとした意見が出されていた。そんな中、荒川委員から、過去に予算を組んでマップを作ったことがあるという情報提供があったもので、参考までに本日皆様にお配りする
	藤田委員	最終的には道の駅が出来ればよい。それまでに既存のものを活用するという事で、アーニス拠点として情報提供を行うということで話が進んでいた。
	事務局	<p>最終的な目的に繋がる取組みを考えて頂きたい。観光客の方々や市民が登別の資源を知った後、そこから次に進むのは何かというところがステップ2の内容だと思う。道の駅を作るまでには、もっと準備が必要なのではないかな。</p> <p>各カテゴリーの取組が似てきているところはあるが、各カテゴリーがそれぞれの答えを出していた結果として、通じるものがあれば、最終的な提言の中には混ぜ込んだ内容のものとなっても良いと思う。</p>
	米田委員	地域に点在する資源を紹介することで、地元の方や観光客に市内を回遊させ、地域全体の経済効果をもたらす。
	藤田委員	行政や観光協会、商工会議所、ほか各種団体のタテ割りなので情報の一元化が必要になるのではないかな。
	米田委員	2020年に観光客のピークとなると予想されているが、その後のリピーター創出が課題になる。
	千葉委員	子供から大人までが地域の魅力を知り、地元の話ができるようになるなど、話の輪を広げることができ(周知・口コミ)、それにより地域経済の振

		興が図られる。
	米田委員	各機関において特化した情報を確実に集め、それを統合する機関（NPOなど）があることで、地域とのパイプを担うことができ、経済の循環が生まれる。
	井上委員	市内の民間企業をつなげる機会を創出し、システムを構築することで、新たな展開へのヒントが生まれ、経済の振興が図られる。
	千葉委員	例えば、長期休暇などに親子で地域資源を回れるMAP作成すると良い。
	藤田委員	キーとなる施設で定期的なイベント（食・体験・技術披露）ができれば良い。
	米田委員	キーとなる場所の確保や協力者の調整、周知方法、実施期間、企画、運営の現実的な主体を誰がやるのかが問題となる。
	事務局	本日はこれで終了します。お疲れ様でした。